

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200147
法人名	NPO法人 陽会
事業所名	グループホーム だいふくの杜
所在地	熊本県八代市大福寺町313番地1(2)
自己評価作成日	令和 7年 2月 9日
評価結果市町村報告日	令和 7年 4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 7年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和5年10月に坂本町より、災害対策として、歴史と伝統文化が息づいたうやなぎ校区大福寺町へ新築移転いたしました。事業所名もグループホームだいふくの杜に変更し職員一同日々の支援に取り組んでいます。設備面では電子カルテシステム導入によりスタッフ間のスムーズな情報共有やペーパーレス化により作業の効率化につながっています。また眠りコネクトを導入し、入居者様の生活リズムの把握や転倒事故リスクの軽減、職員の身体的・精神的な負担の軽減に繋がっています。広々としたホールや居室から見えるシンボルツリーのもみじや田んぼの稲は、四季折々の自然の変化を色とともに感じ取ることが出来ます。また、日常的にソファにゆっくり座りたわいもない会話や笑い声が響き渡り、食事の準備やお茶碗洗い、テーブル拭きや洗濯物干しや洗濯物たたみなど生きがいがいい役割として、活気ある生活を送ってられます。今後、地域の方々との交流を大切にしながら家族のような温かさと信頼を育んでいきたいと考えています□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所移転から1年が過ぎ、新たな地で新たな体制のもと事業運営が行われています。提携法人との連携体制も整っており、医療連携、情報共有、IT化等と支援の充実と効率化に日々取組まれています。法人全体での職員の連携や研修・委員会制度、事業所内での研修等、学ぶ機会も多く持たれ、入居者それぞれの個別の支援に臨まれています。管理者の、委員会活動や研修内容を踏まえ、事業所での日頃のケアにどう活かすか、繋げるかの姿勢を訪問時の面談で感じました。隣接するグループホームだいふくの杜とは同法人でありながらも違う面もあり、入居者同士の訪問でも「ご近所さん」のような適度な距離感もあるようです。現在は地域との関わりや交流の場を大切にし、地域との協力体制の構築にも力を入れて取り組まれています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	権現福祉会の理念と共に事業所独自の理念を壁に掲げ朝夕の申し送り時に全員で唱和している。毎月の会議では理念を念頭において話し合う機会を作りケアに繋げている。	連携法人の理念と共に事業所の理念を掲げ毎日の唱和で職員間の共有も行っている。従来からの事業所理念をもとに毎月の会議等でも話し、振返る機会も持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会開催のお祭りなどに参加し交流を図っている。引っ越しをして1年が過ぎたばかりで、これから本格的に交流を深めていきたい。	事業所移転から約一年が経ち、地域への挨拶等で親交をを深めるよう取組んでいるところである。今年度は地域のふれあい祭りへ声掛けがあり、入居者も参加した。運営推進会議を通じて地域にも事業所の取組みを積極的に伝えている。近隣の方々への挨拶や散歩時の声掛け等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内の自治会長様にご参加いただき、認知症についての説明なども行っている。現在は町内会の会合などで自治会長様より施設についてお話しいただいている。今後、場を設け活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の都度、現在の利用者の状況、サービスの状況、研修の報告を行い委員の皆様にも理解を深めていただいている。そして委員の皆様からの意見は取り上げ改善実施している。	年6回の運営推進会議では入居者の日頃の様子や事業所の活動等を積極的に報告を行い、意見も頂いている。運営推進委員会開催後には身体的拘束適正化検討委員会も開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば連絡し指示を頂いている。またグループホーム連絡会主催の行政からの研修に参加している。	運営推進会議には市役所及び地域包括支援センターからの参加があり、事業所での取組みを伝えている。日頃の業務においても、入居者の状況等、相談・報告等行い、協力関係の構築に取組んでいる。研修会等にはできるだけ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放、但し防犯上20時～朝6時は施錠している。身体拘束については事業所内外の研修に参加し全職員が理解したうえでケアに努めている。車椅子で過ごされる利用者については、意思を確認し居室で休んでいただいたり、ソファを利用して過ごしていただいている。	各職員の自己チェックリストを定期的に行い、職員間の不明点や考え方の違い等を研修会で話し合いを行っている。疑問点等は都度話し合いを重ねている。身体的拘束適正化検討委員会では自由に過ごして頂くケアをしていることを基本に、例えば「歩くと危ない」場面でもスピーチロックに繋がらない声掛け等、言葉の言い換えに取組んでいることを報告した。	

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所外の研修に参加して学ぶ機会を持つようにしている。事業所内でも学ぶ機会を持ち、特に言葉の虐待が見過ごされる事のないように言いかえ集を作成し、スタッフ会議でも常にケアを振り返っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員間で話し合い活用できるように理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は十分な説明を行い理解及び納得を頂いている。また、改定時は書面を郵送し、お電話もしくはご面会時に十分な説明を行い、疑問点等を尋ね、理解及び納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や体調説明のための電話連絡時に、ご家族に意見を伺っている。それらを記録に残し、伝達し職員間でも話し合っている。	面会等で家族来訪の際には積極的に職員からも声を掛け、入居者の日頃の様子を伝え、意見・要望等得る機会としている。遠方の方等には電話等で入居者の状況を報告し共有している。家族の言葉は記録に残し、共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議や月1回のスタッフ会議に法人理事にも参加していただき、利用者に対してのサービスの向上や仕事の内容について話し合っている。結果を随時理事長に報告している。	職員は日頃から管理者へ意見や提案を伝える機会を持っている。毎月の職員会議には理事の参加もあり、直接意見を伝えることもできる。法人全体のサポートで、意見を直接伝えることができる連絡先も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加意欲等を昇給・賞与反映する人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者には、勤務調整をしたり、相談に応じている。地域のGH連絡会主催の研修会は、希望を募りより多くのスタッフが参加できるようにしている。		

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、同グループのグループホームとの会議の中で、取り組みについて話し合ったり、ネットワーク作りを行っている。また、八代市のG・H連絡会の管理者間で情報交換も行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し不安を取り除くように努めている。入居当初は特に関わる時間を設け、職員間で情報共有し安心していただけるようにケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん入居後も御家族の話を聞き、折に触れ利用者の情報を報告したり、関係づくりに努めている。管理者を窓口にして深く関わっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずスタッフに情報を提供し、ご家族や本人が必要としている事を入居後すぐに実行出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に合わせてお茶碗洗いや洗濯物干し・たたみ、テーブル拭きや片付けなどの役割を持っていたりしている。またおやつを職員と一緒に作ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回ホームでの様子の写真やお知らせを載せた新聞を発行したり、面会時にもその都度様子を伝えたり家族等からの話を傾聴したりしている。病院受診等にも一緒に付き添い、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も以前からのかかりつけ医に受診されたり、馴染みの方の面会がある。感染症対策の為、窓越しの面会ではあるが喜んでいただいた。	コロナ禍以降、他感染症対策もあり、面会は状況を把握しながらの受入れであるものの、家族との関係が希薄にならないよう務めてきた。家族協力によりドライブに出かけたり、入居者に馴染みのある方の来訪等もある。	

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり音楽に合わせてラジオ体操や踊りを踊ったりしている。利用者同士の関係をみて、席の移動もしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも転居先の施設に面会に行ったり、またそのご家族とも継続的な付き合いが出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で利用者の希望・意向を把握し、家族等の面会時にも利用者の意向を聞くように心がけている。また、興味を持たれた事、趣味、生活歴を見ながら活動内容に取り入れている。利用者個別のシートを作成し全職員が把握できるように努めている。	入居者の意向は職員との声掛けや寄り添いで把握している。生活の中では飲み物等、好みを把握したり、選択を促す声掛け等に務めている。「行きたい」「食べたい」等の言葉が出た際には通院後に対応する等、個別に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からはもちろん、それまで利用されていた施設や病院等からの情報収集に努め、入居後も折に触れ本人やご家族に興味や嗜好品、生活歴を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状態を把握している。また会話や表情にて精神面の把握をして、その人らしく過ごせるように支援を心掛けレクリエーション等にも積極的に参加を促し運動機能の低下防止にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族等に介護に対する要望を聞いたり、今の課題を話し合ったうえで職員間でミーティングを開きそれぞれの意見やアイデアを反映したり、主治医にホームでの状況等を報告し、又助言を頂きながら介護計画を作成し家族等への説明をしている。	入居者の意向、家族からの言葉等の日々の記録や通院時の医師の意見等も反映し、職員間で意見を共有している。ケアマネージャーとの面談でも、グループホームは家族であり、入居者にはやりがいを持って生活していることを思っ欲しいとの言葉もあり、入居者の持つ力を活かし、現状に即した介護計画を作成している様子がある。	

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで報告し情報を共有している。その情報を必要に応じて話し合い、ケアや介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、入退院時、冠婚葬祭時の送迎の支援など、本人・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長様より地域交流の情報を得て参加に繋げたり、地域の祭りの奉納馬が来たりして楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居時希望を聞いている。受診時は健康チェック表を提示し心身状況を説明している。訪問診療は健康チェック表に心身状況を記入し説明をしながら情報共有を図っている。また相談及び指示を頂きながら連携体制の構築に努めている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は、往診・通院それぞれである。通院の際は家族協力もあり、必要に応じて立会いも見られ、情報共有も行っている。定期的な訪問看護もあり、緊急時の体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師が定期的に来ホームし利用者の身体状態を一人ひとり確認し、又職員がホームでの情報や気づきを報告し対応策を助言してもらったり、処置をしてもらっている。訪問看護とは24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、地域連携室を通して医療機関や家族と情報交換を行い、退院後スムーズに支援できるように経過確認及びカンファレンスに参加している。		

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化になった場合、家族や医師、スタッフと話し合うようにしている。重度化になった利用者の担当医師と連絡を密にしホームで出来る限りの支援を行っている。転居の場合、他施設と情報交換している	入居の際、重度化や終末期に向けた方針と事業所での対応を説明している。訪問看護は定期的他、緊急時の対応もできる体制である。重度化した際には医師・家族他関係機関等と話し合いを重ね、支援に取り組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外の研修にも参加し、全職員が対応できるように努めている。緊急時は職員連絡網に沿って連絡し夜間の急変時はまず管理者に連絡し指示受けの対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練及びBCP訓練を利用者と共にやっている。緊急連絡網を作り職員に配布している。地域との協力体制については、自治会長様とも現在検討中である。	隣接する事業所と合同での消防避難訓練は年2回(昼・夜想定)、地震は机上訓練を行っている。台風に備え、発動機についての説明を職員に行った。地域との協力体制について検討を始めたところである。	火災を起こさないことが第一ではありますが、周囲は住宅地でもあることから、特に人員が少ない夜間帯等、今後の重ねた訓練の実施が必要と考えます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性に合わせて声かけや対応を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように会議等で話し合っている。不適切な言葉かけについては言いかえ集を作り啓発に努めている	入居者の生活歴や背景等も考え、それぞれに合わせた声掛けや対応を行っている。事業所研修でも接遇をテーマに行った。不適切な言葉掛けについては言い換え集を作成した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、利用者の希望を引き出すようにしたり、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。スタッフの都合に合わせて対応にならないように、会議や申し送り時に話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや洗面所でブラッシングされる方もおられる、また入浴の着替えの準備はスタッフと一緒に衣服を選んでもらったりこちらで準備の必要な方もいる		

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食を提供し季節感を出している。また、野菜の皮むきを一緒に行ったり、月に1回のおやつ作りでは、個々の能力に合わせて参加していただき、楽しみの一つとなっている。	法人栄養士による献立を基に、職員手作りの食事を提供している。時には饅頭を作ったり、誕生会のケーキの盛り付け、季節のおやつ作り等、入居者も関わる機会を持つ。現在は野菜の皮むき等、生活の中で出来る範囲での関わり作りを継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてる献立にて食事を作り、食事摂取量、飲水量を毎日記録している。また月1回体重を計り職員が情報を共有し管理している。飲水量が少ない方には好みに応じた飲料を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、本人の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前に義歯を預かり、夜間洗浄している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿・便意のない利用者には時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るようにしている。就寝後もトイレ誘導している人もいる	できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っており、入居者それぞれの排泄の状況を記録し把握している。夜間はぐっすり休んで頂くことも大切にしており、眠りスキンの導入で目覚めた時にパット交換を行う等、個別の対応を行っている。時間帯によるパットの種類や交換時間の検討等も重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事や乳製品で対応し、水分を多めに取られるよう声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否の強い方には声かけの工夫や時間、曜日をずらしたりと柔軟に対応し、気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。現在は足浴をしながらシャワー浴対応の方が主である。	週2回の入浴を基本としている。毎日入浴できる環境で、拒否や体調不良等の際には日をずらすこともできる。好みのシャンプー等にも対応している。	

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や訴えに応じて休息の時間を提供したり、日中の活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援している。不眠の方には家族、医師と相談し安眠出来るように支援している。現在導入している、眠りコネクトにて、覚醒時のパット確認を行い、睡眠の妨げにならないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り情報を全員が共有している。処方箋の変更があった場合は副作用や利用者の様子を記録に残し、状態によっては医師や家族に連絡、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗洗いや洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き、後かたづけ等個々に合わせた役割を持っていただいている。レクリエーションやおやつ作りなどを楽しんでいただき、外気浴、散歩などで気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩などはお天気を見て日常的に行っている。今年度は地域のお祭りや同グループのボランティア(マンドリン演奏)に参加し喜んでいただいた。感染症の状況を見ながら、戸外に出かけていきたい。	散歩や庭での外気浴等は日常的なものである。庭にはベンチもあり、木陰で心地よく過ごすこともできる。地域祭りの馬見せ等、入居者に馴染みのあるイベントを楽しむ機会もある。家族の協力によるドライブや通院を利用した買い物・ドライブの機会もあった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、紛失等もあるのでご家族に説明し、現状では本人による所持及びホームでの預かりはしていない。何か欲しい物がある時は、家族に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされたり、ご家族様の定期的な電話を取り次ぎお話しされたり、月1回の職員からご家族様へのお手紙に本人様からのメッセージを書いていたいただいている。		

グループホーム だいふくの杜

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事の際には、飾りつけを行い季節感を出し楽しんでいただいている。美味しい料理の匂いや包丁の音がしたり、音楽をかけて五感を刺激するよう努めている	温かみのある造りの共用空間では、それぞれが思い思いに過ごす入居者の姿がある。事業所内で手作りされる料理の「音」や「におい」を感じたり、時には数人で風船パレーを楽しむ姿等もあり、日々の生活が営まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファなどお一人お一人が好きな場所で過ごし、テレビを見たり利用者同士話をしたり出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベットやタンスは施設の備え付けを使用しているが、寝具や時計など使い慣れた物や仏壇・写真・お花など愛着のある物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。家族写真等、家族との関わりを感じることができる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両脇及び、トイレ、浴室など必要な部分に手すりを設置して安全を考慮している。自力歩行、杖歩行、車椅子介助など一人ひとりのADLや理解力に合わせた支援、介助を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム だいふくの杜

作成日 令和7年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防避難訓練は年2回（昼・夜想定）行っている。周囲は住宅地でもある事から、特に人員が少ない夜間帯等、今後の重ねた訓練の実施が必要である。	夜間想定避難訓練を近隣の方の協力を得て実際に夜勤帯で行う。	災害時の通報の手順や避難経路及び避難誘導の優先順位などスタッフ会議で確認していく。また、訓練時に地域の方々の協力体制が得られるように取り組んで行く。	12ヶ月
2	49	希望に沿って戸外に出かけられるような支援が必要である	感染症の状況を見ながら、季節に合わせた外出を行い楽しみを持って頂く	季節に合わせた計画を立て、ご家族様の協力も得ながら外出支援を行う。	12ヶ月
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。